

1998年4月4日[土]—6月28日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)/年末年始(12月29日—1月3日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

65歳以上及び障害者の方100円(80円) ()内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581



向井潤吉

女性像の表現をめぐるって

このたびの展覧会では、向井潤吉先生の画業の中でも、あまり知られることのない女性をモチーフとした作品を中心としてご紹介いたします。

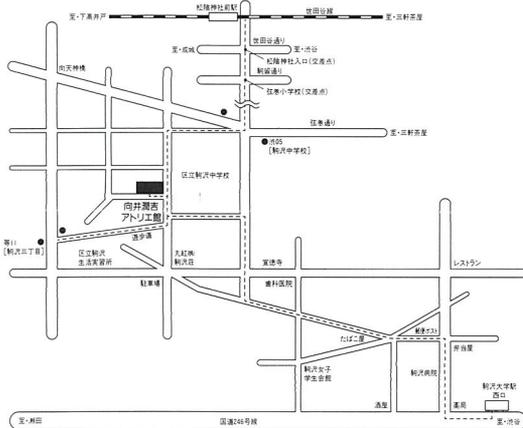
日本の伝統的な家屋である、草屋根の民家を描き続けたことで知られる向井潤吉先生は、その若き日、昭和2年から5年にかけて渡欧し、パリのルーヴル美術館において、人体をモチーフとする古典名画を中心とした模写に没頭されています。そしてまた、毎夜の日課として、グラン・ド・ショミエールに通い、裸婦のクロッキーに膨大な紙数を費やし、人体表現と、対象の形態を的確に表現することに、研究と習練を重ねています。

向井先生が15歳(大正5年)の時、関西美術院に籍をおくようになったのも、油絵を学びたい気持ちがあったのと同時に、人体を描きたいという動機がつかったようです。

そして、先生と同時代の作家の作品を通じてみても、人体というモチーフが実に多彩に、さまざまな表現によって描かれてきており、画家にとって、人体というモチーフがそれぞれの創作の上で、重要な位置を占めてきたことがわかります。

このたびの展覧会では、向井先生が画学生の頃に描いた裸婦のデッサン、油彩による婦人像をはじめ、グラン・ド・ショミエールでの裸婦のクロッキー、また戦後、民家を求めての旅の途中に出会った農婦の姿を描いた作品など、先生が女性をモチーフとして制作した作品を中心に展示いたします。

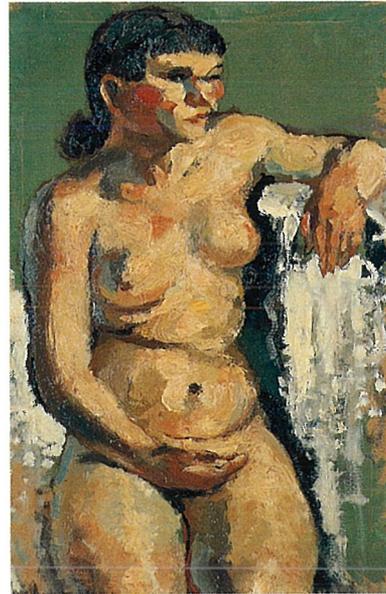
またあわせて、向井先生のライフワークとなった民家作品の数々も展示し、先生の多彩な画業の一端をご覧いただければと思います。



横たわる裸婦 1923年頃



草月六月(北海道石狩川周辺) 1967年頃



裸婦 1933年頃

向井潤吉——女性像の表現をめぐる



裸婦 1920年頃



遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城) 1986年



裸婦(パリ、グラン・ド・ショミエールにて) 1959年頃

●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分
- 東急バス (法05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (法11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス (法13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1
 TEL.03-5450-9581